

先ほど経歴のご紹介をいただきましてありがとうございます。若かい頃は一番重要視しているのは学歴で、大きくなったら経歴が非常に重要視されています。そして今の年となると気になるのは病歴です。

RCと申し上げますと、台湾も戦前日本統治時代に台北にRCを設立しまして、いろいろな奉仕活動を展開してまいりました。日本との間も非常に交流が頻繁で、いろいろな社会奉仕やボランティア活動を展開しております。特に台湾からの留学生、皆様の米山奨学金に大変お世話になっており、この場を借りまして篤く御礼申し上げます。

国際奉仕においてもRCは素晴らしい業績を築き上げられていることに対し、最高の敬意を表しますと共に、長い間日台交流にも大変な力を貸していただき、重ね重ね御礼申し上げます。引き続き台湾との交流が益々親密になることを祈念してご協力をお願い申し上げます。

まず会場に着いた途端、強く目に映ったのは「世界へのプレゼントになろう」と。私が今晚皆様に差し上げられるのはプレゼントではなくプレゼンテーションです。(笑)

ちょっとスクリーンが離れていますので見づらいところはあるかもしれませんが、画面をご覧くださいながら説明してまいりたいと思います。

まず今、ご覧になっているのは「台湾新幹線」です。これも日本の新幹線の技術を取り入れて、台湾の南北約 400kmを結ぶ大動脈となっております。戦前、日本統治時代に色々なインフラを台湾に残してくれたおかげで、今まで台湾の経済発展させてまいりました。今後 100 年、更に 200 年とこの大動脈は台湾の経済を支えている大きな存在になっており、ひとつの日台友好のシンボルともなっております。

皆様、もうすでに台湾に行かれたことがあると思いますが、基本データをご紹介します。首都は台北市です。一人当たりのGDPは 2 万 2,000ドルぐらいで世界ランクでは 37 位。勿論、日本の世界ランク 2 位にはまだ遠く及ばないですが、面積と人口でご覧いただければ、こういう小さな島でこれだけGDPを上げられるのは、台湾の奇跡と言えるでしょう。

面積は 3,600 平方キロ、大きさは日本の九州よりはやや小さいですが、人口は九州の倍以上の 2,300 万人です。平均温度は 22 度。今、東京はかなり冷え込んでいますが、台湾の高雄は 25 度もあり、非常に暖かいところです。

今、台湾国内で一番注目されている話題は来年の総統選挙です。これは台湾の未来を左右する大事な選挙ですので、国内外から非常に注目を集めています。今、台湾で大きな政党は 3 つあります。3 つ以外にも小さな政党もありますが、国会で議席を占めているのはこの 3 つの政党です。青天白日のロゴは「国民党」、今の与党です。国会の定数 113 のうち過半数の 65 席を占めております。緑の台湾のロゴが入っているのは「民進党」。野党で、議席は 40 席。オレンジ色は「親民党」、議席は 2 席しかありません。

一番大きな「国民党」と次の「民進党」。このふたつの政党はどう違うかと申しますと一番大きな違いは「対中政策」にあります。「国民党」は中国に対して「融和政策」を主張しております。中国は台湾にとって大きな存在で、非常に重要な隣の国で、また経済においても大きなマーケットであり、無視できない存在です。ですから「国民党」の政策は中国と仲良くして、最終的には兩岸の統一を目指しているのです。

対して全く違うのは「民進党」です。要するに台湾は独立のアイデンティティーがあり、独自の路線を歩むべきだ、中国とは一線を画して独自の外交を展開しようというのが「民進党」の政策です。「親民党」というのはどちらかと言うと対中は中国寄り。中国との速やかな統一を訴えている政党です。

この3つの政党から既に先月27日大統領立候補者の届出が締め切られました。この3つの政党から公認された3人の候補者は三つ巴の状態となっております。「国民党」の候補者は「朱立倫(しゅりつりん)」、54歳。本籍は浙江省。台湾生まれですが、お父さんの代は1949年に蒋介石と一緒に台湾に渡って来た2世の方です。戸籍謄本では本籍というのはまだあるのです。中国でお父さんの代の生まれたところを本籍としており、所謂台湾の国内では「外省人(がいしやうじん)」と言われております。学歴も経歴も非常に優れた方で、今、「国民党」の党首を務めております。

「民進党」の党首は「蔡英文(さいえいぶん)」、58歳。本籍はお父さんの代はすでに台湾で生まれたので、台湾の南の屏東県で、アメリカとイギリスの大学を卒業して、行政院副院長。朱立倫と同じ行政院副院長、日本の内閣副総理に当たるポストです。

「親民党」の党首は「宋楚瑜(そうそゆ)」。

この方は所謂外省人で湖南省出身の方です。アメリカ留学を経て初代の台湾省長でした。1985年台湾省長に当選しましたがけれども、その翌年李登輝(りとうき)元総統の政策により台湾省が廃止されました。最後のエンペラーとも言われております。台湾省の省長として政治的な腕が高く評価されていましたが、廃止されたあとは3回も総統選挙に出馬して3回とも落選しました。今回は4回目の挑戦となります。「親民党」は要するに速やかな統一派です。

先ほど申し上げたのは総統候補者ですが、今度は副総統候補者。それぞれ出揃いました。「国民党」からは「王如玄(おうじょげん)」という方。この方も非常に優れた学歴と経歴を持っていらっしゃるのですが、注目していただきたいのは、彼女は中国人民大学の博士です。中国ともパイプが太い方で、労工委員会主任委員、日本流で言いますと労働大臣の経歴を持っていらっしゃいます。

「民進党」の副総統候補は「陳建仁(ちんけんじん)」。

これは公共衛生関係の専門家です。衛生署長というのは厚生労働大臣、を務めたことがあります。今、台湾の最高研究機関、中央研究院の副院長。「親民党」の候補は「徐欣瑩(じょきんえい)」。

異色の方で、今国会議員ですが、今年「国民党」という政党を立ち上げました。自ら党首を務めております。トライアスロン、要するにスポーツ堪能の方で今回、宋楚瑜(そうそゆ)さんとペアを組んで副総統の選挙に出馬するということです。

「国民党」はそれぞれの事情がありまして、さっき申し上げた3つの党の中で野党の「民進党」がわりと早く立候補を党内の手続を経て、立候補者を早い段階で「蔡英文(さいえいぶん)」に決めました。それに対して「国民党」の内部ではいろいろな思惑があって、なかなか立候補者が決まらなかった時期がありました。そういうときに「洪秀柱(こうしゅうちゅう)」、67歳、本籍は浙江省。所謂これも外省人。アメリカ留学の学歴を持っていらっしゃって中学校の教師を勤めたことがあります。今、国会の立法委員。立法委員というのは国会議員。当選8回で国会の副議長を務めております。今、国民党の幹事長を務めております。この方が、なかなか党内の候補者に誰も名乗りをあげないので、彼女が自ら捨石になるつもりで他の男性に早く立候補してもらおうように先に名乗りをあげました。しかしながら、当時、「蔡英文(さいえいぶん)」と対抗できると有力視されていたのは今の立法委員長、つまり国会議長の「王金平(おうきんべい)」が一番の実力者で、この人を推すべきだと党内の意見は大多数を占めていたのですが、彼のいろいろな政治的な配慮があり、立候補を断念しました。その時に先に名乗りあげた方を支持するということを表明しました。そしてその後「洪秀柱(こうしゅうちゅう)」さんが立候補を表明したあと、いろいろな世論調査で非常に不利な状況が続いております。

マスコミですが、中国時報(ちゅうごくじほう)は国民党寄りの新聞社です。聯合報(れんごうほう)も国民党寄りですが、やや中立の立場です。自時報由(じゅうじほう)は民進党寄りのマスコミです。テレビ局のTBSはやや中間的な立場をとっております。シンクタンク台湾智庫(シンクタンク)、これは民進党寄りです。民進党寄りであろうが国民党寄りであろうがいろいろな世論調査の結果を見れば「蔡英文(さいえいぶん)」ペアが圧倒的な勢いでリードしていることは共通しております。数字はいろいろ分かれ

ておりますが、「蔡英文(さいえいぶん)」は圧倒的なリードで今、選挙戦は終盤戦に突入する状態にあります。「蔡英文(さいえいぶん)」は支持率が40台、朱(しゅ)陣営は20台くらい。宋(そう)陣営が一番最後です。

先ほど申し上げたように「洪秀柱(こうしゅうちゅう)」という方が中国寄りの発言をしているいろいろな世論調査では国民の警戒心が働いて支持率が伸び悩んでいるのです。そこで体制を立て直そうと、直前になって国民党党首の「朱立倫(しゅりつりん)」が自ら出馬すると。そうすると「洪秀柱(こうしゅうちゅう)」は更迭させられて、選手交代となって今、「国民党」の体制立て直しが結局不発に終わってしまった状況です。

論争の争点というのをまとめて申し上げますと、兩岸関係と経済政策と社会問題。これは選挙戦の中で一番注目されている争点になる議題です。兩岸関係で一番大きな違いは先ほど申し上げました。「国民党」は1992年、香港で兩岸関係の民間組織のトップがトップ会談を開きました。そこでひとつの合意が得られました。合意というのはこれも非常に曖昧な合意でありまして、「国民党」の言い方では、「中国は1つ」ということは認めます。ただし、台湾は中国というのは中華民国、北京の中華人民共和国と違います。そういうふうな解釈をそれぞれ台湾側、北京側それぞれに解釈するという事に合意したと「国民党」は言っております。しかしながらそれは文字になるような記録はどこにも残っておりません。北京側もそういうコンセンサスは「中国は1つ」だけ認めます。各自解釈は認めません。だからコンセンサスにおいて北京側は半分しか認めないのです。

台湾の「民進党」はそういう文字にもなっていないコンセンサスなんてありえないし、最初からそういう兩岸の合意は存在しないと張り張っております。けれども「国民党」はそういうコンセンサスを踏まえて2008年以降、台中融和政策を打ち出したのです。そういうコンセンサスがあったからこそ2008年以降の兩岸の交流が盛んになったということが言えると。「国民党」はコンセンサスの役割は非常に大きいと強調しております。そういうコンセンサスに立って現状維持、要するに平和的に兩岸交流をすすめようと。お互いに政治問題を棚上げにして経済発展に集中するというのが「国民党」の政策です。

しかし「民進党」は、それはできないと。台湾は台湾独自の路線で独自の外交、独自の経済を発展させるべきだということで、今回の選挙戦の中で一番大きな論争はこれだろうと思います。

経済政策の件ですが、今、台湾の経済は非常に厳しい局面を迎えております。10月の失業率は3.9%。10月発表で成長率は1.06%に下方修正しました。大学新卒の給料は20年前と同じ。横ばいで20年たちました。ベアアップも全然してないのです。国民は安倍総理の「3つの矢」を学んで、有効な経済政策をとってほしいと政府に非常に強く期待しております。しかしながら段々中国との交流が深まるにつれて中国のマーケットに対する依存度が高まっております。国民の中では依存度が高くなるにつれて全部ビジネスは大陸に進出し、資本も吸い上げられて、空洞化が心配されています。従って早く地域経済統合、TPP(Trans-Pacific Partnership:環太平洋戦略的経済連携協定)とか特に日本とのFTA(Free Trade Agreement:自由貿易協定)締結を非常に強く望んでいるわけでありまして。そこで「国民党」と「民進党」のどちらのほうが有効的な経済政策を打ち出してくれるかを選挙民は注目しているところです。

3つ目の社会問題というのは、最近台湾で回収した食用油を再生して市場で売り出すことが大きな問題となり、政府のチェック・監督が甘いと風当たりが非常に強い。そういうあおりで、今度3/11対日本の農産物が放射能を帯びているのではないかと。日本からの農産物の年間の輸入額はおよそ8億ドルに達しています。非常に大きいのです。大量に輸入している日本の農産物に対してチェックは全然していないのではないかと「民進党」の議員が政府を追及し、国会で決議を作って日本からの農産物に対して規制を加えることになりました。日本の食品は非常に安全で、年間300万人の台湾人が日本に来て食べているわけですから、そんなに心配することはないにもかかわらず、国会の決議があり、

行政部門は決議にしたがって規制をせざるを得ないことになりました。

またもう一つ、原発の存廃と関わっております。台湾は3基の原発を持っております。もう1基建設中のものがありますが、3/11の影響で原発反対の気運が高まり、建設中の原発の工事が凍結されました。残り3基の原発でかろうじて電力が供給できますが、原発反対の気運の影響で食品への規制もなかなか解除できない。解除することは非常に難しい。それにもかかわらず、行政部門は引き続き日本の関係省庁と話し合いをして早期の解除を目指して頑張っております。

先ほど申し上げましたが、兩岸関係については現状維持。「国民党」の政策は対中融和政策を打ち出しております。大陸委員会というのは中国大陸関連業務をあくまで持っている省庁ですが、その世論調査によりますと86%の台湾の国民は現状維持を望んでおります。速やかな統一は2%しかありません。速やかな独立も4%しかありません。しかしながらこれは政府の世論調査です。民間の世論調査によるいろいろな数字が出てきますので、一概には言えませんが、今アイデンティティーは独立派と統一派でほぼ半分ずつ占めているのが一般の世論調査の結果であります。

この間、11月7日、台湾の馬英九(ば・えいきゅう Ma Ying-jeou) 総統が中国の習近平(しゅうきんべい) 国家主席と兩岸会談を開きました。これは非常に意味深い出来事です。何故かというと1949年に台湾と中国は分裂してから66年にして初めての事です。最高指導者が対等に同じテーブルについて話し合いをしたという非常に歴史的な意味があります。台湾の目的は、現状維持を続けるためにトップ会談が必要だと。そしてトップ会談を通じて一つのメカニズムを作って、これから長く台湾海峡の平和と安定を固めていく。これは私共の一番大きな目的です。このトップ会談についてはアメリカの国務省からも歓迎されるコメントが発表されております。

これから日台関係について申し上げますが、2008年馬英九(ば・えいきゅう Ma Ying-jeou) が総統に就任してから、台湾と日本の関係を特別なパートナーシップという位置付けをして様々な分野における交流を着実に精力的に推進してまいりました。著しく発展させてきたわけでありまして。その中で一番大きく注目しているのは2012年8月5日東シナ海平和イニシアチブを提唱したことです。何故かというと日本と非常に関係が深いです。日台関係は非常にスムーズですが、たった一つ漁業問題では大きな摩擦があり、17年間話し合いをしてもなかなか埒があきませんでした。漁業問題がどうして解決できなかったかということ、東シナ海に浮かぶ小さな島がネックになっているのです。お互いに領有権を主張している。そうすると両国が漁業協議を開くときにどうしても避けて通れなかった。馬英九(ば・えいきゅう Ma Ying-jeou) 総統が2012年にイニシアチブを提案しました。つまり所有権の争いを棚上げにして漁業問題の解決を優先させ、共同開発しようではありませんかということのひとつの礎を作ったわけです。その礎の上で漁業協議がようやく合意したわけです。東シナ海と同じように南シナ海にも問題があるので。

南シナ海は日本と直接関係していませんけれども、台湾も二つの大きな島を持っているのです。我々も同じように争うことを棚上げにしまして、共同開発する意欲はあります。南シナ海の周辺各国と共同開発しようではありませんかと働きかけております。

台湾と日本の一番大きな進展は2013年4月10日の漁業区に関する取り決めに調印したことです。これでお互いの争いが終焉し、お互いに争いを棚上げにして沖縄の漁民達と仲良く平和的に共同操業できるようになりました。大きなネックが解決した後は日本との友好関係は飛躍的に向上し、オープンスカイも実現し、台湾と日本の間に週に558便も飛び交うようになりました。

そして人的往来も非常に進み、去年両国あわせて460万人に達しました。今年、山形県で開催されました「日台観光サミット」で新たな目標は500万人と定めて、お互いに観光促進に力を入れておりますが、今の段階で既に460万人は達成していますので今年度500万人の大台を突破するのは期待できるだろうと見込んでおります。

日台関係、貿易総額も非常に大きく6億ドル。赤字は非常に大きいです。ただし赤字があるから台湾の黒字は生まれるという非常に矛盾な構造になっております。投資額も台湾にとっては日本からの投資が一番大きいです。台湾にとって日本は第三位の貿易パートナー。日本にとって台湾は第四位であります。

今年は1月から10月までに既に451万人が台湾から日本に行っております。ですから台湾から日本に行く人は人口で割れば約12%、つまり8人に一人は日本に行っております。日本から台湾へは1%。1億2000万人いらっしゃいますから100人に一人しか台湾に行かれておりません。是非皆様大いに台湾に行ってください。青少年交流として修学旅行にも我々台湾は非常に力を入れている大きな外交の仕事です。日本の修学旅行の行き先はシンガポールの次は台湾です。台湾から日本へは約8000人。修学旅行は台湾より日本の方が多い。

国民感情の意識調査では、台湾人が最も好きな国は日本で45.8%。2番目のアメリカは23.3%と非常に大差をつけております。一番嫌いな国が一番好きな国とほぼ同じように46.8%です。2番目のアメリカよりも非常に大きく開きがあります。

台湾人の中には日本に対して親近感を持っている国民が非常に多いです。我々の事務所が行った2009年の意識調査では日台関係は非常に良いと、良いを併せて60%以上は日台関係の良さを示しております。

先ほどふれましたけれども、特別パートナーシップを打ち出してから、ワーキングホリデー制度があり、これは青少年30歳以下の学生がこのビザで一年間アルバイトをしながら観光できるのです。そして東京羽田と台北松山の定期便の就航も日台関係を促進する大きなエネルギーとなっております。皆さん、是非これを利用して台湾においでください。

これから益々両国関係が発展し、馬英九総統が日本からのお客さんに対していつも決まり文句のように強調しているのは、40年余りの間で今が一番最良の状態であると。安倍総理も台湾は基本的な価値を共有しているパートナーであり大切な友人であると。そういう親密さがあります。

結びですが、日台関係がこれまで大きな成果をあげてこられたのは、ひとえに皆様からの長きにわたるご尽力の賜と。そしてこのような自由民主、人権、法的支配の基本的な価値を共有して結ばれている絆は、日台双方の共同の資産であります。是非この共同資産を活かしていろいろな交流をし、引き続き日本との友好の輪を広げていきたいと祈念しております。引き続き皆様からのお力添えのほどお願い申し上げます。

光が望みを叶えて、もっと大きな輝きとなりますように。皆様の益々のご多幸とご発展をあわせて祈りまして、私のスピーチとさせていただきます。ありがとうございます。

<閉会点鐘>

今日は郭副代表、まことにありがとうございました。私達日本人が、そしてロータリーの面々が知らなかった台湾の良さをあらためて知ることができまして、有意義な例会であったと思います。これを手始めにいつでもお気軽にお越しいただき、何なりとご意見、情報を私共日本人に提供していただければ、我々も大いに成長できるのかなと思った次第でございます。本当に郭副代表誠にありがとうございました。もう一度郭副代表に拍手を。

これをおもちまして第35回目の例会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。